

はじめに

私たちの生活は、大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会経済システムで成り立っています。しかし、一方で、資源の枯渇や廃棄物の増大、地球温暖化など、様々な環境問題が生じています。これらの環境問題を解決するためには、資源の消費が抑制され、将来にわたり持続的発展が可能な循環型社会を形成することが重要です。

資源循環型社会とは

「資源循環型社会」とは、廃棄物の発生抑制・再生利用・適正処理により、地球環境への負担を最小限に抑え、資源が循環する社会のことです。廃棄物の発生抑制や再生利用は、ごみの焼却によるCO2排出を抑制するほか、新たな化石燃料の使用抑制にもつながり、地球温暖化防止に貢献します。私たちは生活を見直し、ごみの減量、資源の有効利用を図らなければなりません。市民の皆さん、事業者と市が協働で「資源循環型社会」を目指し、ごみ問題に取り組みましょう。

3Rでごみ減量

ごみを減らすためのキーワードは「3つのR」です。
ごみを減量するために、もう一度自分自身の生活習慣を「3つのR」で見直してみましょう。
一人ひとりのちょっとした心がけで、ごみ減量と資源の循環ができます。

第1のRは Reduce (リデュース)

ごみになるものを減らすこと

- 使い捨てになるものは買わない
- レンタルを上手に活用する
- 買い物にはマイバッグを持っていく
- 過剰包装は断る
- パック入りを買わず、必要な量だけ購入する

第2のRは Reuse (リユース)

ものを簡単にごみにしないで、工夫して繰り返し使うこと

- 壊れたものは修理して使う
- 詰め替え商品を利用する
- フリーマーケットやリサイクルショップを利用する

第3のRは Recycle (リサイクル)

再生利用すること

- 不用になったものをごみとして捨ててしまうのではなく、もう一度資源として利用する
- 資源とごみをきちんと分別して出す
- 再生品を買う、使う

指定ごみ袋の出し方・使い方

「決められた収集日」の午前8時までに
「決められた指定ごみ袋や指定ステッカー」で
「決められたごみステーション等」に
出してください

決まった日の朝に出していますか？

せっかく正しく分別したごみ袋も、前の日に出すとカラスや猫によってごみが散乱し、ごみステーションを汚すことにもなります。

指定袋の口はしっかり結んでありますか？

ごみ1袋は片手で持てることが基本です。抱え込んで持たなければならないような止め方（テープ止め等）だと収集時にごみが散乱しやすく、収集員がけがをすることもありますので、テープ止め等ではなく指定袋の口をしっかりと結んで中身がこぼれ落ちないように出してください。

指定ステッカーの使用方法

指定ごみ袋に入らないものは、指定ステッカーを貼って「粗大ごみ」として出してください

水切りとエネルギー

クリーンパーク北但では、ごみが燃える際の熱で発電しています。このため、水分が減ると、ごみが燃えやすくなり、発電量を増やすことができます。

1回の水切りで、LED電球(60kw型)を3時間点灯させる電力が生まれます。未来を明るくするために、キッチンで発電(水切り)しませんか？